

勝興寺/全体

勝興寺は、1471 年に真宗本願寺派の寺院として創建されました。浄土真宗では、身分や経歴に関係なく、すべての人は仏の前では平等であるとの教えがあります。この教えは民衆に特に訴えかけ、真宗の普及に寄与しました。勝興寺の歴史は、その信徒たちによる強力な地方の支持があったことを映しています。勝興寺の境内にある建造物のほとんどすべては江戸時代（1603-1867）のものであり、寺院の建造物群は 1803 年に描かれた絵図とほぼ同じ姿をしています。

建築遺産

勝興寺は 12 棟の建物からなり、そのすべてが重要文化財に指定されています。特に、本殿と大広間、玄関広間式台は、その建築的・歴史的意義から国宝に指定されています。

19 世紀後半に、明治新政府（1868-1912）が神道を公認宗教としたため、多くの寺院が破壊されたり、所有地を減らされたりしました。そのため、ひとつの歴史的時代からこれほど多くの建造物がほぼそのままの形で残っている寺院は珍しいことです。

混乱の歴史と移転

15 世紀後半、勝興寺は一向一揆として知られる一連の反乱を起こした武装集団の拠点でした。これらの反乱は、不公平な税制や社会状況に反対するために、大名や武士階級に対して、農民や商人を含む浄土真宗信徒たちによって率いられたのです。勝興寺はこの動乱で焼失し、1584 年に現在の場所（現在の富山県高岡市）に再建されました。

前田家の庇護

勝興寺は、江戸時代、権勢を誇る前田家の庇護を得て栄えました。加賀藩（現在の富山県、石川県）の大名として、寺院を保護し、財政的に支援しました。寺院が過去に一向一揆に関与し、一部の浄土真宗信徒と支配者層の間に緊張関係があったにもかかわらず、この支援は行われました。前田家の支援は、おそらく地元住民の好感を得て、さらなる反乱を鎮めるための動きであったと考えられます。前田家にはその子孫に住職を務めた者もあり、同家は寺院の拡張と改良のために土地を与え、資金を提供しました。